

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 132人 国語B 132人

② 数学A 131人 数学B 131人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

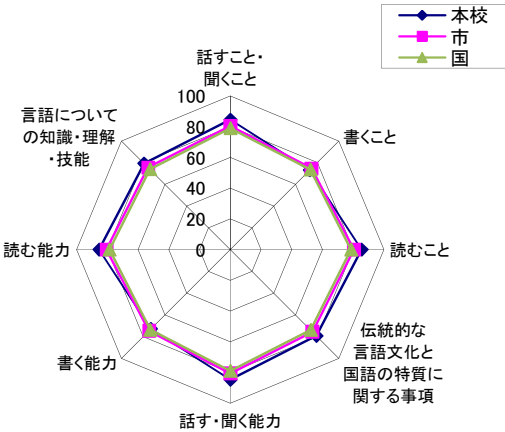
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

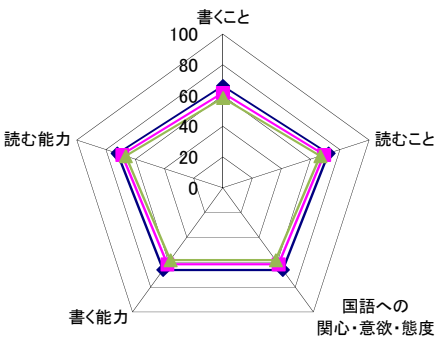
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	84.6	80.5	78.9
	書くこと	73.1	74.7	73.7
	読むこと	85.4	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.3	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	84.6	80.5	78.9
	書く能力	73.1	74.7	73.7
	読む能力	85.4	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	79.3	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	66.2	61.6	58.3
	読むこと	72.2	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	66.2	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	66.2	61.6	58.3
	読む能力	72.2	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

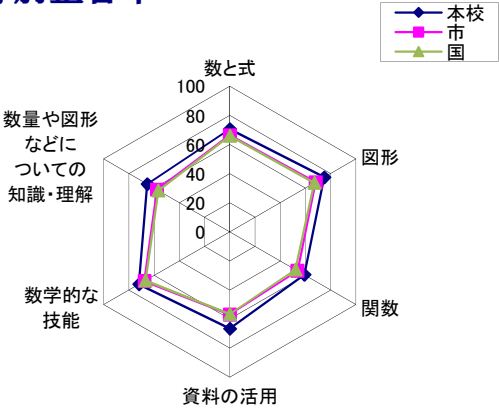
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○【国語A】市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。特に「相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す」や「全体と部分との関係に注意して話を構成する」の項目で正答率が9割を超えている。	○ 今後は、話し合いの中で他の発言を検討し、自分の考えに反映させるような学習活動を取り入れていく。そのためには、話し合いが単にそれぞれの意見を述べて聞きあうだけのものに終わらぬような工夫が必要になる。相手の発言の意図を正しく聞き取る尋ね方などについても具体的に指導していく。
書くこと	●【国語A】市の平均正答率を1.6ポイント下回っている。「文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く」や「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」の項目で正答率が低い。また、市、県、全国よりも無解答率が高い。 ○【国語B】市の平均正答率を4.6ポイント上回っている。「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く」の項目で正答率が高い。	○ 文章を書く学習活動では、文相互のかかわりを捉えたり、内容を考えて段落分けをしたりする学習を取り入れる。また、接続語等の文や語をつなぐ言葉を効果的に用いて文章を書くことができるよう指導する。 ● 明快な構成で根拠を明らかにして意見文を書かせる指導は、今後も継続して行う。
読むこと	○【国語A】市の平均正答率を4.9ポイント上回っている。「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」や「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」の項目で正答率が高い。しかし、市、県、全国よりも無解答率が高い。 ○【国語B】市の平均正答率を3.1ポイント上回っている。「文章の中心的部分と付加的部分とを読み分け、要旨を捉える」の項目で正答率が高い。	○ 無回答率の高さへの対処として、授業の中で意見を求める際は、間違いを恐れることなく発言できる雰囲気を作る。また、さまざまな意見を取り上げ、授業の中で生かす工夫をする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○【国語A】市の平均正答率を3.7ポイント上回っている。「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」や「辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える」の項目で正答率が高い。	○ 文の成分や語と語の関係について理解を定着させる。また、特に修飾・被修飾の関係においては係り受けを正しく見定めることができるよう指導を徹底する。紛らわしい文・複数の意味にとれる文について、その正しい書き表し方についても再度指導を行う。

宇都宮市立一条中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

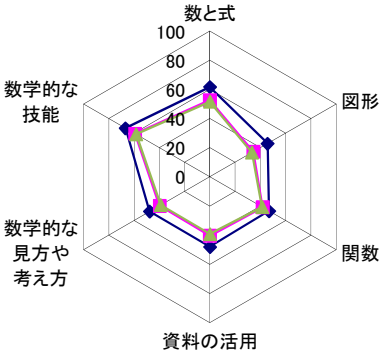
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	70.6	66.4	65.9
	図形	74.9	68.1	67.1
	関数	59.1	53.7	52.0
	資料の活用	66.6	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	72.1	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	65.6	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	61.6	52.7	51.5
	図形	45.8	34.5	33.3
	関数	46.9	41.9	41.4
	資料の活用	48.1	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	47.7	39.9	38.9
	数学的な技能	66.8	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○【数学A】平均正答率が市の平均を4.2ポイント上回っている。設問別では12問中9問で市の平均を上回っており、おおむね良好である。特に一元一次方程式の解の意味を問う問題では、平均正答率が市の平均を17ポイント上回っている。 ○【数学B】平均正答率が市の平均を8.9ポイント上回っている。また、すべての設問において平均正答率が市の平均を上回っている。 ●【数学A】簡単な一元一次方程式を解く問題において、平均正答率が70%を超えているものの、市の平均を1.4ポイント下回っている。	・単に計算等の技能を身につけるのではなく、意味を十分に理解しながら学習を進めていく。その上で計算力の向上を図るため、家庭学習も含めて問題演習の機会を増やしていきたい。
図形	○【数学A】平均正答率が市の平均を6.8ポイント上回っている。特に多角形の外角の和の性質を問う問題では、平均正答率が市の平均を12.2ポイント上回っている。 ○【数学B】平均正答率が市の平均を11.3ポイント上回っている。特に三角形の合同を利用した証明問題では、平均正答率が市の平均を15ポイント上回っている。	・演習問題によくある出題形式とは異なり、本質を問う形の問題に対して十分に対応できるように思考力、表現力の向上を図る。証明の学習は論理的な思考を要するため、丁寧に学習を進めることで効果的に思考力、表現力を高めていきたい。
関数	○【数学A】平均正答率が市の平均を5.4ポイント上回っている。設問別では8問全てにおいて市の平均を2～9ポイント上回っている。 ○【数学B】平均正答率が市の平均を5ポイント上回っている。設問別では5問中4問で市の平均を上回っており、おおむね良好である。 ●【数学B】グラフの傾きを事象に即して解釈する問題では、平均正答率が30.5%と低く、市の平均正答率を0.7ポイント下回っている。	・表、式、グラフのもつ長所、短所を正しく理解させ、目的に応じて適切に使用できる力を育成する。 ・1次関数のグラフの傾きが変化の割合と等しいことについて、活用する場面を設定した学習教材が必要である。グラフの傾きが速さを表す一般的な問題だけでなく、変数 x 、 y の内容を確認し、それぞれの増加量から変化の割合を求める一連の思考が必要となる事象を問題として用いたい。
資料の活用	○【数学A】平均正答率が市の平均を9.7ポイント上回っている。特に表から最頻値を読み取る問題では、平均正答率が市の平均を17ポイント上回った。 ○【数学B】平均正答率が市の平均を7.6ポイント上回っており、良好である。	・近似値と誤差の意味を理解して真の値の範囲を求めることや、有効数字を用いて表すことなどは身近な事象に見られる数学の一つである。他領域の学習と関連を図った課題が少ないために習熟度が低い。意図的に他領域の学習課題に盛り込み、復習の機会をつくりたい。

宇都宮市立一条中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

＜学校や家庭での学習について＞

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いに対して「している」と回答した本校生徒の割合は30.1%で、全国の平均を14.1ポイント上回っている。また、「どちらかといえば、している」という回答を含めると63.9%となり、本校生徒の多くが計画的に家庭学習を行っていることが分かる。

○「家で、学校の授業の予習をしていますか」という問いに対する本校生徒の肯定割合は57.1%で、全国、県の平均を20ポイントほど上回っている。また、「家で、学校の授業の復習をしていますか」という問いに対する肯定割合は69.9%で、全国、県の平均を上回っている。多くの生徒が授業の予習、復習を毎日の家庭学習に取り入れていることが分かる。

○「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」という問いに対して「している」「どちらかといえば、している」と回答した本校生徒の割合は81.2%で、全国、県の平均を5ポイント以上上回っている。家の人との学習に関する話題、将来に関する話題を通して、生徒の学習に対する意欲が高まっていると考えられる。

＜毎日の生活について＞

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した本校生徒の割合は83.5%と高く、全国の平均を10.8ポイント上回っている。また、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した本校生徒の割合は78.2%で、全国、県の平均を上回っている。学校行事や部活動、生徒会活動、学級活動などにおいて、生徒一人ひとりが役割を担い、協力して充実した活動を行うことができている。

○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」という問いに対して「毎週1回以上行く」と回答した本校生徒の割合は16.5%で、全国、県の平均の2倍以上である。また、「毎月1回以上行く」と回答した生徒を含めると本校生徒の割合は40%を超え、全国、県の平均を大きく上回っていることから、学校および家庭における読書の習慣が身につけている生徒が多いことが分かる。

●「学校の規則を守っていますか」「友達との約束を守っていますか」の問いに対して「当てはまる」と回答した本校生徒の割合は50%以上であるものの、県の平均よりも10ポイント程度下回っている。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した割合は32.3%で、県の平均を9ポイント下回っている。道徳や学級活動などの時間を通して、きまりを守る素直な心や豊かな心を育み、自らの考えで正しく判断し行動する力を育てていきたい。